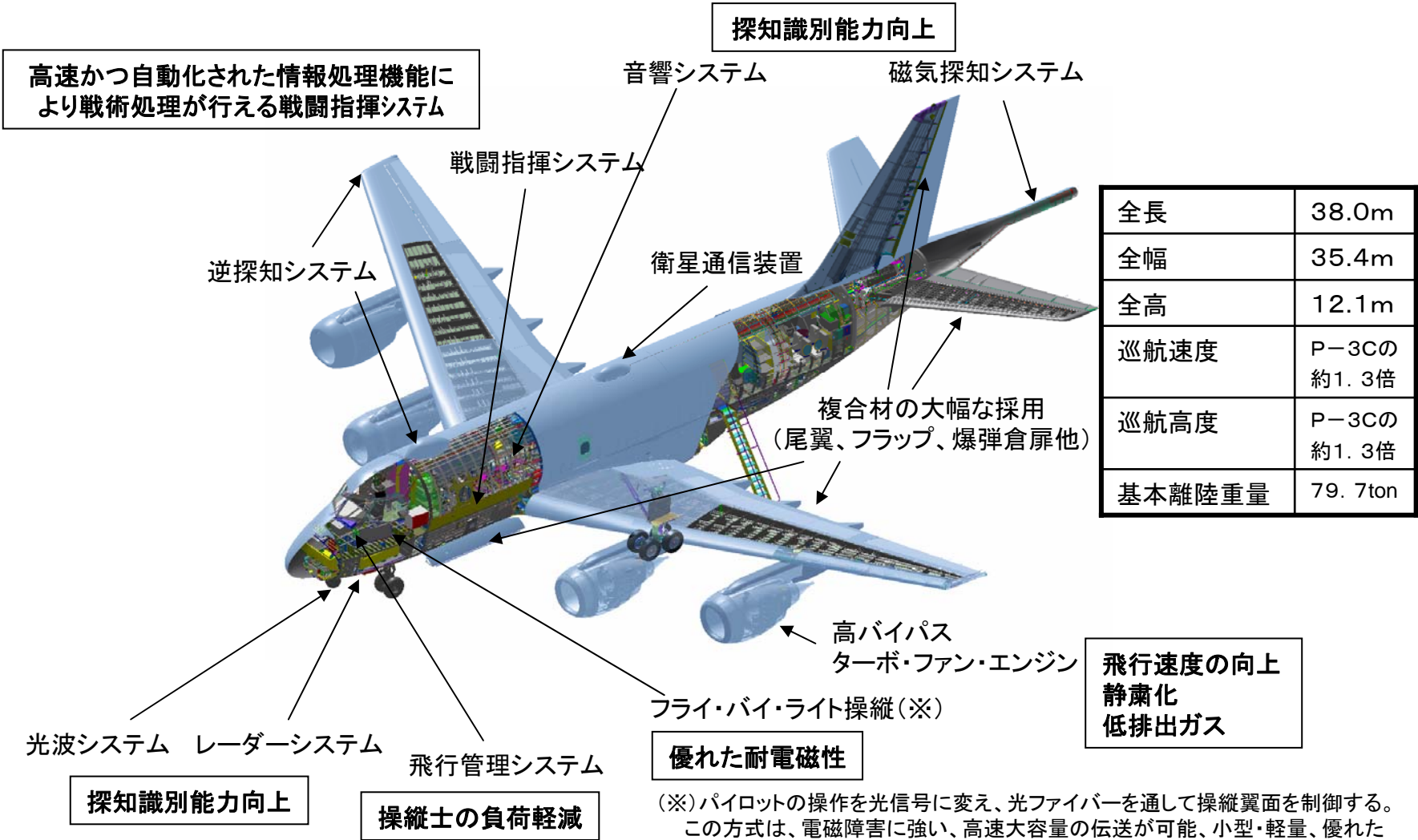


参 考 資 料

- 別紙1 次期固定翼哨戒機(P-X)の概要
- 別紙2 P-Xによる性能向上
- 別紙3 「平成17年度以降に係る防衛計画の大綱」抜粋
- 別紙4 17中期防における計画
(17中期防より抜粋)

次期固定翼哨戒機（P-X）の概要



全長	38.0m
全幅	35.4m
全高	12.1m
巡航速度	P-3Cの約1.3倍
巡航高度	P-3Cの約1.3倍
基本離陸重量	79.7ton

探知識別能力向上

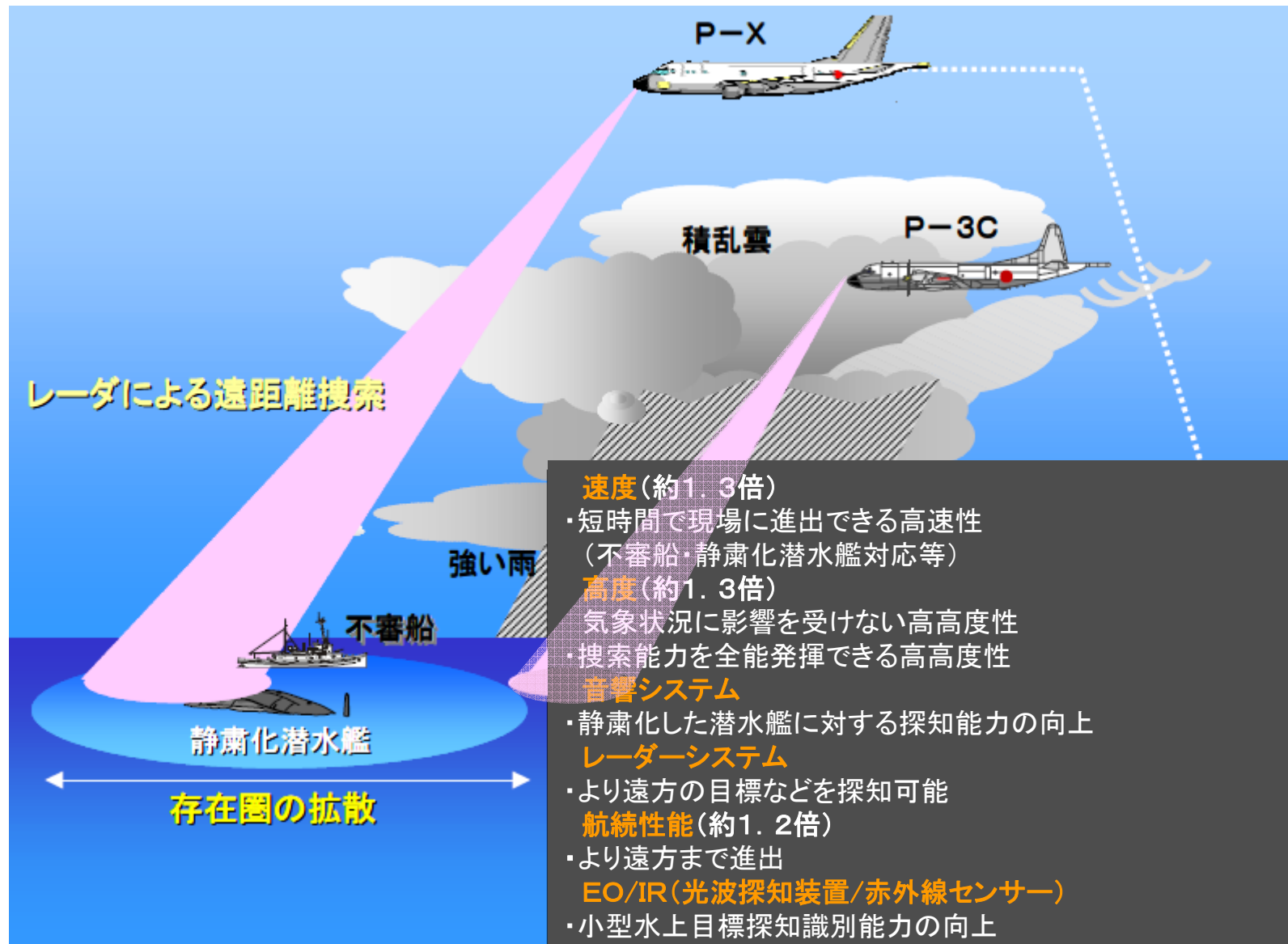
操縦士の負荷軽減

優れた耐電磁性

飛行速度の向上
静粛化
低排出ガス

(※)パイロットの操作を光信号に変え、光ファイバーを通して操縦翼面を制御する。この方式は、電磁障害に強い、高速大容量の伝送が可能、小型・軽量、優れた防火性・耐食性を持つ等の特徴がある。なお、本操縦システムの採用は、実用機としては世界初である。

P-Xによる性能向上



平成17年度以降に係る防衛計画の大綱（抜粋）

（平成16年12月10日 安全保障会議決定、閣議決定）

IV 防衛力の在り方

1 防衛力の役割

（1）新たな脅威や多様な事態への実効的な対応

事態の特性に応じた即応性や高い機動性を備えた部隊等をその特性や我が国の地理的特性に応じて編成・配置することにより、新たな脅威や多様な事態に実効的に対応する。事態が発生した場合には、迅速かつ適切に行動し、警察等の関係機関との間では状況と役割分担に応じて円滑かつ緊密に協力し、事態に対する切れ目のない対応に努める。

新たな脅威や多様な事態のうち、主なものに関する対応と自衛隊の体制の考え方は以下のとおり。

（中略）

イ ゲリラや特殊部隊による攻撃等への対応

ゲリラや特殊部隊による攻撃等に対しては、部隊の即応性、機動性を一層高め、状況に応じて柔軟に対応するものとし、事態に実効的に対応し得る能力を備えた体制を保持する。

（中略）

エ 周辺海空域の警戒監視及び領空侵犯対処や武装工作船等への対応

周辺海空域において、常時継続的な警戒監視を行うものとし、艦艇や航空機等による体制を保持する。また、領空侵犯に対して即時適切な措置を講ずるものとし、戦闘機部隊の体制を保持する。さらに、護衛艦部隊等を適切に保持することにより、周辺海域における武装工作船、領海内で潜没航行する外国潜水艦等に適切に対処する。

17中期防における計画（17中期防別表より抜粋）

主要装備の整備規模（新中期防）

区 分	種 類	整備規模
陸上自衛隊	戦車 火砲（迫撃砲を除く） 装甲車 戦闘ヘリコプター（AH-64D） 輸送ヘリコプター（CH-47JA） 中距離地对空誘導弾	49両 38両 104両 7機 11機 8個中隊
海上自衛隊	イージス・システム搭載護衛艦の能力向上 護衛艦 潜水艦 その他 自衛艦建造計 （トン数） 新固定翼哨戒機 哨戒ヘリコプター（SH-60K） 掃海・輸送ヘリコプター（MCH-101）	3隻 5隻 4隻 11隻 20隻 （約5.95トン） 4機 23機 3機
航空自衛隊	地对空誘導弾ペトリオットの能力向上 戦闘機（F-15）近代化改修 戦闘機（F-2） 新戦闘機 新輸送機 輸送ヘリコプター（CH-47J） 空中給油・輸送機（KC-767）	2個群及び教育所要等 26機 22機 7機 8機 4機 1機